

3市ごみ減量推進市民会議 情報グループ要望書

3市のごみ減量推進市民会議 情報発信・環境学習グループからの要望について

令和4年1月24日

3市ごみ減量推進市民会議 情報グループ

【委員氏名（敬称略）】

グループリーダー 小金井市 石田 潤
日野市：伊藤 紀代江、比留間 文彦
国分寺市：石垣 直子、小泉 伸明
小金井市：石田 潤、齋藤 徹子

令和4年1月24日

3市ごみ減量推進市民会議情報発信・環境学習グループからの 要望について

3市ごみ減量推進市民会議
情報発信・環境学習グループ

1. 情報発信について

令和2年4月から浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設が本格稼働し、2年が経過しようとしています。第2期3市ごみ減量推進市民会議では、各市の市民に発信すべき情報の内容及びその方法について検討する情報発信グループと、更なるごみ減量に向けた取り組みなどを検討する減量グループの2つの小委員会で令和2年8月7日から検討を行ってきました。令和4年3月31日で任期満了となることから、情報発信・環境学習グループでの検討内容を報告いたします。

ごみの減量については、市民の十分な理解と更なる取組が不可欠であることから、市民会議として以下の内容を市報等全世帯配布の媒体に掲載し、3市市民に周知することを要望します。

(1) 周知方法

前回と同様、各市の広報誌又はごみ情報誌にA3サイズで1ページ相当の特記記事を、3市共通で掲載する。

各市HPにも要約版等を載せ、ごみ分別アプリなどを活用し、市民への周知徹底を図る。

(2) 掲載時期

令和4年3月（各市の広報紙又はごみ情報紙の発行日）

(3) 掲載内容

- ① 3市ごみ減量推進市民会議からの提言・要望内容
- ② 3市ごみ減量推進市民会議からのメッセージ
- ③ 浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設の運営状況
- ④ 3市で実施している協働事業の概要

2. 環境学習について

情報発信・環境学習グループでは、令和2年8月より市民に発信すべき情報の内容及びその方法について検討を始めました。各委員には、「環境学習」、「情報提供」の新たな取組として、下記の（2）の様なアイデアをご提案いただきました。

同時期に国内で深刻化した新型コロナウイルスの感染拡大により、会議は度々順延され、十分な時間が取れませんでした。このような限られた時間内の議論ではありましたが、各委員から提案された多面的なアイデアを、体系的に分類した上で、その概要を報告します。更にこの中から、グループ会議で各委員から支持の多かったものについては、まずは第一段階として、3市で実施に向けた検討を提案いたします。

（1）支持が多かったもの

- ① 主に小学生を対象にした見学用副読本の編纂
- ② 小学生・中学生・高校生・大学生等からのごみ減量に関する論文募集

（2）各委員から提案されたアイデアの概要

項番	項目	概要	支持	備考
（1）日野市クリーンセンター周辺地域の情報発信				
1-1	見学用の副読本の編纂	主としては小学校を対象に、親も子も学習できる副読本的なものを作成し、クリーンセンターの見学時に配布する。	◎	3市へ取組を提案
1-2	周辺住民のご苦勞の周知	クリーンセンターの周辺住民のご苦勞や問題点を市報等で周知を図り、市民のごみ削減意識を強化する。		
1-3	見学を踏まえた、ごみ減量対策の提案	クリーンセンター見学後の小学生に、ごみ減量策を提案させ、1年後に実績の報告会を開催する。		
（2）3市覚書内容に関する情報発信（次期ごみ焼却場への構想や準備も含む）				
2-1	次期ごみ焼却場建設に向けた市民意識の形成	次期ごみ焼却場に付加価値を付ける提案（例えば、デンマークのグラススキー場や小平市の足湯など）を募るワークショップの開催。ごみ焼却場の建設を前向きに捉えるように、市民意識の変革を促す。		
2-2	若手研究者・技術者・市民活動家などの人	小学生から大学生までを対象とし、ごみ削減を含む環境問題に関わる研究・開発への助成		

	材育成	や表彰を行う。若手の研究者、技術者、市民活動家などの人材の育成が目的。これらの若手を核に次期ごみ焼却場の建設を前向きに捉える市民を増やす。		
(3) 施設の現状や稼働状況に伴い3市が取り組むべきことに関する情報発信				
3-1	コミュニティーバスにごみ問題の吊り広告を掲載	コミュニティーバス（ミニバス、ぶんバス CoCo バス）の吊り広告にごみ問題を掲載することで、意識し、興味を持つ市民を増やす。		
3-2	ごみ拾い活動	河川（浅川）沿い、旧街道のごみ拾いウォーキングを開催する。		
3-3	不用品の再使用	リユースのフリーマーケット、フェスティバル（浅川清流環境組合まつり）を開催する。		
3-4	児童・生徒のアンケート調査	小学校高学年以上を対象に、ごみに関するアンケート調査を行い、集計結果を市民や学校に情報提供する。		
3-5	市民へのアンケート調査	大規模なスーパーの前などで、ごみに関するアンケート調査等を実施する。		
3-6	自治会・グループ単位、個人での取組の紹介	生ごみリサイクル、ごみ減量、河川や用水などの清掃、我が家での取組の紹介。特に、これまで市報などで、紹介されていない活動・取組を定期的に募集し、紹介する。		
(4) 市民及び行政が取り組む、環境に配慮したごみ減量施策				
4-1	生徒、学生からのごみ減量に関する論文募集	小学生・中学生・高校生・大学生等に、ごみ減量の提案を応募する。各市の現状とこれからできること、特に、ごみ減量の必要性と対策などの提言。	◎	3 市 へ 取 組 を 提 案

4-2	ごみ袋の価格見直し	「実績（一人当たり平均）の半分に相当する容積のごみ袋を無償支給。それ以上は倍増に設定。削減効果が倍増する。」ことをワークショップなどで提案し、議論してもらうことで、市民に改めて減量意欲を喚起する。 ごみの容積を減らすことで、回収車の出動回数を減らし、周辺住民への負担を軽減する。		
4-3	食品ロスの低減	フードバンクや子供食堂などの情報を市報などで提供し、これらの活動への支援が食品ロスの低減・ごみの減量となることを市民にアピールする。		
4-4	ごみの分類の理解度促進	市民にごみの分別がどれ程わかっているかを投げかけ、更にわかりやすくする。		
（５）複合的なアイデア提案（講演など）及びその他協議・検討する事項				
5-1	論文コンテスト	小中学生のごみ問題に関する論文コンテストを開催する。		
5-2	廃棄物を使った実験	大気圧や表面張力の実験を実演・体験する。		
5-3	浅川土手の形成と治水	氾濫原の役割を学び、信玄堤などの治水の歴史を学ぶ場を提供する。		
5-4	河川や地下水の自然探索	浅川の流速や流量の測定、地下水の流れを知る水文学の学びの場の創造（水のマーキング）、断層の痕跡探し、環境退化による乾燥状況現場視察など。		
5-5	アイデアの募集	市民から、ごみ削減に関する、「我が家のごみ削減」、「リサイクルアイデア」などのアイデア募集をする。景品に風呂敷を進呈。		
5-6	水銀含有量の測定	身近な水銀として、人毛などの含有量の測定等々の実演や体験をする。		
5-7	環境教育	SDGs とはなにかを啓蒙する。（市民講座では、よく扱われているが、行政の立場からの情報提供も必要ではないのか）		